

令和2年度真岡市総合教育会議議事録

1. 日時 令和2年9月24日（木） 午前9時30分
2. 場所 本庁舎405会議室
3. 出席者
(構成員) 石坂市長
田上教育長、樋口教育委員、深谷教育委員、杉村教育委員、大島教育委員
(関係者) 嶋田副市長
(事務局) 石崎教育次長、細谷学校教育課長、青柳生涯学習課長、中里文化課長、
長瀧スポーツ振興課長、風山学校給食センター所長、
上野自然教育センター所長兼科学教育センター所長、
小林学校教育課指導係長、野澤情報教育推進係長、
青山学校教育課総務係長、泉水指導主事、上野主査
4. 傍聴人 0名
5. 議題
(1) 真岡市教育大綱について
(2) GIGAスクール構想について
6. 議事の内容
1 開会
石崎教育次長 ただ今から、令和2年度真岡市総合教育会議を開会いたします。
本日の会議の進行を務めさせていただきます、教育次長の石崎でございます。
よろしくお願いします。
2 あいさつ
石崎教育次長 はじめに、石坂市長からごあいさつをお願いいたします。
石坂市長 石坂市長あいさつ
石崎教育次長 ありがとうございました。
ここからの議事の進行につきましては、真岡市総合教育会議設置要綱第3条1項により、石坂市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 議事

石坂市長

最初に本会議の議事録署名人を指名いたします。
樋口教育委員、深谷教育委員を指名いたしますので、よろしくお願ひします。

次に本日の議題であります「真岡市教育大綱について」であります、皆さんからご意見等を伺う前に、事務局から説明をさせますのでよろしくお願ひします。

細谷課長

真岡市教育大綱は真岡市総合計画の教育分野を以って定めるものであることを説明。真岡市教育大綱（案）学校教育課部分について説明をした。

青柳課長

真岡市教育大綱（案）生涯学習課部分について説明をした。

中里課長

真岡市教育大綱（案）文化課部分について説明をした。

長瀧課長

真岡市教育大綱（案）スポーツ振興課部分について説明をした。

風山所長

真岡市教育大綱（案）学校給食センター部分について説明をした。

上野所長

真岡市教育大綱（案）自然教育センター及び科学教育センター部分について説明をした。

石坂市長

ただ今、事務局より説明がありましたが、何かご意見がありましたら、お願ひしたいと思ひます。

大島委員

子ども110番の家の見直しは行っているのか。

青柳課長

毎年春の時期に学校を通して、先生と子どもが、子ども110番の家を訪問しており、新たに啓発も行っています。

大島委員

引き受けた際には若かった人も、現在高齢になっており、若い人も日中不在で、子ども110番の家に該当しなくなっていると思う。適時見直しのできる体制ができているとよいと思う。

青柳課長

学校と相談し、確認していきます。

樋口委員 各施策について、課題があって対応があって、成果目標がある。目標を達成するには人や予算をつけていかななくてはならない。ただ、今後のことを考えると、予算が伸びていけば問題ないが、現状減っていった場合に、税金を投入していくわけなので、本当に必要な目標設定であるのかということを見ていった方がよいと思う。事業があると予算をつけなくてはならないので、目標自体をなくしてしまってもいいと思えるものも散見される。事業の縮小ではなく中止することも検討されてはどうか。

石崎教育次長 計画は策定してあるが、毎年事業を振り返って見直ししていくことで、進めさせていただきます。

石坂市長 樋口委員が言ったように税金の中で運用していくわけだが、国・県の補助金があるものもあるが、今危惧しているのは、コロナの影響で企業を含めて税収がどうなるか。こういった中で、目標を立てたものについても、見直しをしていかなければならない状態になってしまう。来年にならないと状況が把握できないが、少なくとも企業の状況をみると税収が落ち込むのは目に見えている。この計画を決定した時点では、予想もしなかった事態なので、特に今後2・3年、コロナの行方の中で、どのような事業展開になるのか、随時、状況にあわせてやっていかなければならない。

深谷委員 総合計画53ページ、国際交流の姉妹校について、平成30年度に6校、目標として令和6年度に9校となっているが、コロナ禍において難しいと思う。増やすということは、各中学校に平等に行き渡るということで、よいと思うが、今推進しているICTを活用して、国際交流ができればよいのではないかと思う。いちごに関することで、県内外の産地の子どもと交流したり、いちごに限らずICTの活用から国内の交流が幅広く出来る。コロナ禍において、残念なことが多いが、逆手にとってできることがあると思う。

石坂市長 国際交流については、真岡中学校がオーストラリアと姉妹校を提携、親書を送るなど姉妹都市を結ぶところまでできていた。姉妹都市になることで、交流も深くなる。議会を通す状況までになったが、このコロナで中断してしまった。コロナがなければ、来年あたり姉妹都市を結んでというところだったが、コロナが落ち着くまで、当分交流は難しい。そのような中では、ICTを使って取り組んでいかなければならない状況があるかと思う。よく検討しながら進めていきたい。

杉村委員

総合計画が2020年から始まっており、まもなく半年が過ぎる。コロナ禍の時代、見通せない状況がいつまで続くかわからないといったときに、令和6年度の目標の数値が挙げられているが、どこかで見直しをしていかなければならない。一年ごとに見直しをするとは思いますが、現在進行形で、子ども達は成長し、今の学年でやらなければならないことが、できていない現実がある。そのあたりで、どのような支援をしていくかが大事になってくると思う。今現在できることとは、どんなことか、ICTを活用し、科学教育センターの先生が学校へ行ったり、社会科見学の代わりにデジタルを活用していくなど、様々あるが、今はそうやっていくにしても、段々に実体験を重視した教育を行ってほしい。映像を見ても記憶に残らない。実際に行って体験をすると心に残ることがあると思う。今現状できないことは致し方ないにしても、出来るようになったときには、ないがしろにしないで、やっていってもらいたい。生活科で野菜を育てて野菜嫌いな子が食べられるようになるなど、成長がある。状況と照らし合わせながら、計画について軌道修正を図りながらやってほしい。

石坂市長

教育だけでなく、現実的にいろんな見直しが迫られる時期があるかと思う。自然教育センターの宿泊について、こちらが大丈夫だと思っても、医療関係者が子供たちを大部屋で宿泊するのはどうかとの意見や、保護者も拒否反応を示す方が出てくる。そういう中で、どのような見直しをしていくのがいいのか、施設を含めて、これからコロナが終息したとしても、新しい様式ということで、いろんな反応は出てくるのだろうと思う。今回、成人式を二会場にするが、成人者から、当日フェイスガードを用意してほしいと担当課へ要請があった。つけるかつけないかは自由だが、入り口で配るなど対応が求められており、過敏になっている状況がある。様々な形の中で、見直しや、逆に違う方向へ進んでいかなければならないこともあると思う。真岡だけでない、全国的な中で、どういう進み方をするか認識していかなければならないと思っている。

石坂市長

議題1「真岡市教育大綱について」は以上とします。
次に、議題2「GIGAスクール構想について」を議題とします。
事務局から説明をお願いします。

野澤係長

GIGAスクール構想について概要を説明した。

泉水指導主事

ICT導入モデル校の状況、真岡市のICT教育の取り組みについて説明した。

石坂市長 ただいま、「GIGA スクール構想について」、事務局より説明がありましたが、説明に対し、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

石坂市長 何月までにタブレットは全児童生徒に行き渡るのか。

野澤係長 現時点の予定では、3月までにということを進めている。

石坂市長 しばらくは、コロナが落ち着くまでは、深谷委員から話があったように、姉妹校についてはICTを活用して交流できるだろうと思っている。

大島委員 GIGAスクール構想で個別最適化された学びを目指すということで、学習が遅れている子にとって非常によいと思うが、その反面、理解の早い子どもについては、どの程度まで最適化されて授業を行っていくのか教えていただきたい。

泉水指導主事 個別最適化された学習ということで、主にAIドリルを活用した学習があります。これは、授業でなかなか習得状況が進まない子どもと、逆に進んでいる子ども、それぞれの状況に合わせた問題を設定し、学習が進められていきます。もう一つは、ひとりひとりの探究活動、いわゆる問題解決型の学習、課題を自分で見出してICT機器を活用し、調べ、まとめて発信するという学習において、今までのアナログの学習より、ICT機器を使った学習の方が、それぞれのニーズに対応できる学びになるものと考えています。

大島委員 子ども達ひとりひとりのやりたいこと、探究心はみなそれぞれ違うと思うが、それに合わせた勉強ができるということか。

泉水指導主事 今回のGIGAスクール構想で、端末が入ることに関しては、全国どこでも同じ環境になると思います。大切なのは、端末が入ったらいいわけではなく、今まで学校で授業をしていた先生方が、どういう授業をデザインしていくか、どういう風に子どもたちに課題を持たせるか。先ほども説明しました通り、真岡に目を向けて、そこを切り口にして学習をしていく。環境面より授業をどう作るかが、今後今まで以上に重要になってくると考えています。

- 田上教育長 教師のICT技術が向上していけば向上していくほど、見る目も肥えてきて、個に対する指導が可能になると思う。今は使うことが精一杯であるが、使いこなしていければ、自信と余裕と、対面での授業での肌間隔が身についていくので、個別への対応、子ども達のアイデアや思考を育むような授業が可能になると考えている。
- 石坂市長 例えば先生になってから、こういったことを学んでいくのは大変だと思う。大学の教育学部では、教員になる人達の授業でプログラムに入っているのか。
- 田上教育長 今後大学のカリキュラムも変わってくると思う。
- 石坂市長 入ってから覚えるよりも、大学時代に教育学部を出た人は、ある程度できるという状況がよいので、教育長会議などで出してもらえればと思う。
- 樋口委員 GIGAスクール構想で実現する新しい学びについて、泉水指導主事から話があったAIを使ったドリルというのは、非常に重要で、ハード面は3月に整備されるが、このソフトはいつごろ入る予定か。
- 野澤係長 来年度予算で要求したいと考えております。現状において、ベネッセに委託し、ICT支援員を入れていますが、ベネッセでドリルについて無償で提供をしてくれるということなので、予算的には来年度になるが、事前に使うような形での体制がとれて、検証等も出来ればと思っています。
- 樋口委員 AIドリルでよろしいか。習熟度別で、一人一台あって、生徒にあった問題がポップアップされるという認識でよろしいか。
- 野澤係長 はい。ソフトについては、ASPというクラウド上にアクセスします。学校のパソコンからアクセスもできますし、アカウントがあれば、自宅のパソコンからもアクセスできる形となります。
- 樋口委員 GIGAスクール構想で実現する新しい学びの部分について、誰が作成したのか。
- 野澤係長 ベースは国のものであり、若干手直しして表記させていただきました。

杉村委員 授業の中で発表の準備時間が短縮され、より深い学びができるということはいいと思う。今は無理かもしれないが、グループ活動で、話し合うという部分の中で育ってきたものも多々ある。一人一人の活動・考えが見えるということは、目で見ての学習、伝え合うということが今まで重視されてきた。そういうことが、ないがしろになっていく懸念がある。先生の授業力が向上していけば、授業の時間配分の中で伝え合う場面をとっていただけると思うが、そういう面をないがしろにせずに取り組んでいただきたいと思う。

田上教育長 説明の冒頭に仮想空間と現実空間というのがあった。杉村委員がおっしゃったのはタブレットを使った間接的なコミュニケーション、そして直接的なコミュニケーション、どちらも大事である。常に私達は相對する二つのもの、直面の問題解決に対して中長期的な問題解決、あるいはグローバルに対して、足元の真岡市、二つのこと、あるいはその他いくつかの軸を持って教育を考えていきたいと思っている。

樋口委員 先を見据えたということであれば、GIGAスクール構想があつて、教育長が言われたように、例えばVRやAR、MRなどの拡張世界や、仮想世界をある程度見据えていくと、進んでいく方向性が変な方向にいかないと思う。大変だがすばらしいものなので、それをベースにしてほしい。早くて2・3年後、5年後・10年後には間違いなくそういう世界になってくると思うので、そういったところに予算を投資していくとよいと思う。

深谷委員 日本がそういう面ですごく遅れているという話から、最先端に行く国の教育におけるICTの使い方は、どういう風になっているのか、レベルの差がわからない。最先端の国の教育の弊害や、いいこともあると思うが、日本はそういう違いを比べながらやっているということなのか。一番下にいるからやらなければならないのか、どこを見据えてやっていくのかが見えてこない。

泉水指導主事 進んでいるところは、例えば、オランダの日本人学校に行った先生によりますと、日本人学校は日本の状況に近いようですが、現地の学校はタブレットしか学校に持っていないそうです。今、国で話題になっているのが、学習者用のデジタル教科書、真岡市で入れているのは指導者用のデジタル教科書であります。教科書は基本、紙で配布されていますが、進んでいるところはそれがタブレットの中に入っているということです。タブレ

ットを持って行って、全て学習する。自分の学習履歴もタブレットの中に残る。そういった使い方をしています。世界中がコロナ禍なので、リモート学習をしています。新聞記事からフィンランドの状況は、日本とはあまり変わりませんでした。持ち帰って家庭で学習をするということは、世界でもそんなに進んでいたわけではなく、今回のコロナ禍を契機に取り組み始めたところが多いです。ただ環境が日本よりも海外の方が進んでいるところが多いので、すぐ一人一台貸せるというような、状況になっており、やり始めると、日本よりは進んでいきます。そういう違いがあります。今回のピサの調査は、タブレットを使ってコンピュータで回答するという調査だったので、そもそも日本の子ども達が授業の中で ICT 機器を使う時間が、先進国の中で一番下ぐらいになっています。そのレベルなので、回答するにも慣れていません。キーボードを打つのに、スキルが劣っているということが、調査として出ています。プログラミング教育が導入されたのも、今後世界でプログラミングをする技術者が不足していき、今の日本の教育のままだと人材育成ができないため、このような導入になってきています。遅れているのは現実的に遅れていますが、日本の教育も素晴らしい部分があると思うので、入って数年経てば、追い付き追い越せという形でいくものと思います。

石坂市長 韓国のレベルはどうなっているのか。

田上教育長 器具の使い方は一人一台持っているから出来ると思う。日本では、一人一台持っていないため、操作ができない。世界的な調査をしても、機械を動かさなくて得点がとれないという状況にある。全国学力テストも来年度から、一部でパソコンにて回答するような問題を出題することになっている。

石坂市長 日本では、例えば私立の中高一貫校とか、すでに5・6年前からタブレットを中心に授業を行っている所などがある。そういうところの状況は、把握はしているのか。奈良県の全寮制の学校で、全授業タブレットで実施しており、20年で東大進学率が5番目ぐらいに入ってきている。そういう学校の事例は把握しているのか。日本でも進んでいる私立があるので、海外だけでなく国内についても調査し情報収集して行ってほしい。

田上教育長 情報収集に努めます。

石坂市長 先ほどの学校はタブレットの他に、全て英語で話しているという特徴がある。体育もすべて英語で話しており、タブレットをうまく活用してやっているということがテレビで紹介されていた。

樋口委員 気を付けていただきたいのは、真岡から足元をやってということは、非常にいいことだと思うが、世界の情報や最先端の情報を集めてきて、どこかのアイデアをそっくり真岡に落とし込もうというのは、一番危険なことであり、考えていかないといけない。真剣に考えてやっている人がいるからうまくいくわけであって、システムをそのまま持ってきてうまくいかないことが多いと思う。そもそも、そこに集まっている教育が優れていて、東大に行っているのか、東大に受かる実力がある人が集まっていて、東大に受かっているのか、因果関係もわからないので、そういう意味では、そこにいる人たちが真剣になって考えて、システムを作りこんで運用していくことがないと、やはり絵に描いた餅になってしまうので、そういうことはないようにお願いしたい。

石坂市長 これは、大変予算もかかることだが、今回国の支援は、早急にやるようにということで、真岡市も5年間で計画していたが、国の方で全国的に進めようということで、単年度でやろうということになった。3月で終わってれば1Gbpsで済んでいたところが、今度は10Gbpsということで、この整備も今後していかないといけない。ほとんどの市町村が1Gbpsでやっていたが、これから大学と合わせるようにということになってきているので、そういう整備も考えていかなければならない。当然タブレットが一人一台になり、ギガが上がればスピードも上がってくるわけだから、それに対応していかなければならない。順調につけられる予算が税収の上りが悪くなれば遅れるということも考えられる。非常に悩ましい時期に来ていることも確かである。いろんな意見を参考にしながら、走り出して、子ども達が活用しながら、いい教育ができるよう先生もしっかり勉強してもらって、技術を得ることも得意不得意があると思うので、教育委員会の方でしっかりと学校と連携をとっていきたいと思う。

その他、意見等なし。

石崎教育次長 長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。

4. その他

石崎教育次長 次に、その他ですが、事務局からは特にはないのですが、皆様から何かご

ございますか。

深谷委員

合唱などのコンクールが全部なくなってしまったが、神奈川県で海外・全国から会場に集まらず映像を撮って音楽をつけて出すというリモートコンクールを実施するということだったので、自身もボーカルアンサンブルをやっているので出してもらった。そこで、メンバーの一人が、ICTにとっても優れていて、クリエイティブ賞を受賞した。このコンクールは、会場に集まったら、違う結果が出たかもしれないが、映像をつけて、初めてのリモートコンクールだったので、いろんな団体が参加したが、クリエイティブであると評価を受けたのは、メンバーの方がそういう技術に長けていたのだと実感した。技術の差が出てくる業界なのだと思った。教育でそれが表れるということは、先生方も大変だと思うが、楽しんでそういう技術を高めて頂ければと思う。

5 閉会

石崎教育次長

以上をもちまして、令和2年度真岡市総合教育会議を閉会といたします。本日は、誠にありがとうございました。

6 閉会時間

午前11時00分